

# 今年度の除去土壌等の再生利用・県外最終処分 に対する理解醸成等の取組状況について

令和5年3月8日  
環境省

# 目 次

- 1. 今年度の理解醸成等の取組状況について . . . . . 3
- 2. WEBアンケート結果について . . . . . 18

# 1. 今年度の理解醸成等の取組状況について

# 理解醸成等の取組状況（一覧）

## （１）現場公開

- ①長泥地区環境再生事業の視察対応
- ②長泥地区環境再生事業の一般の方向け見学会の実施

## （２）全国的な理解醸成活動

- ①「対話フォーラム」の開催
- ②除去土壌を用いた鉢植え等の設置
- ③大学生や高校生等を対象とした講義等

## （３）環境再生ツーリズムの推進

## （４）広報誌等の掲載（環境省広報誌）

## （５）情報発信

- ①福島環境再生等に関する各種媒体の活用
- ②各種イベントにおける福島環境再生等の紹介
- ③「福島、その先の環境へ。」シンポジウムの開催

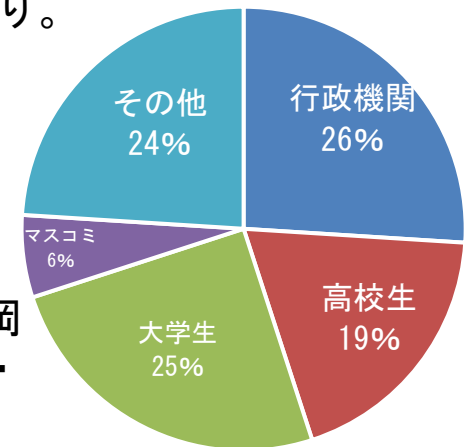
## （６）国際的な情報発信

# (1) 現場公開 ①長泥地区環境再生事業の視察対応

今年度はこれまでのべ630名の視察対応を行った。視察者の例は以下の通り。  
(2023年1月末までの集計結果)

## ＜主な視察＞

- ・ 行政機関：復興庁、農林水産省、福島県、宮城県、飯舘村等
- ・ 高校生：安積高校・福島高校・ふたば未来学園高校・安達高校  
郡山萌世高校・福島工業高等専門学校・須賀川桐陽高校・福島東高校
- ・ 大学生、専門学生：福島大学・法政大学・玉川大学・北海道大学・静岡大学・慶應義塾大学・宮崎大学・九州大学・東京農工大学・大阪大学・神戸大学・京都大学・東京電機大学・青山学院大学・関東学院大学・関西外国語大学・京都女子大学・滋賀県立大学大学院・明石工業高等専門学校・県立広島大学、青森大学等
- ・ その他：海外プレス、在京プレスツアー、ダボス会議グローバルシェイパーズメンバー、フランス国立科学研究センター等



視察者の内訳について



福島工業高等専門学校高専  
(2022年9月14日)



福島東高校  
(2022年9月21日)



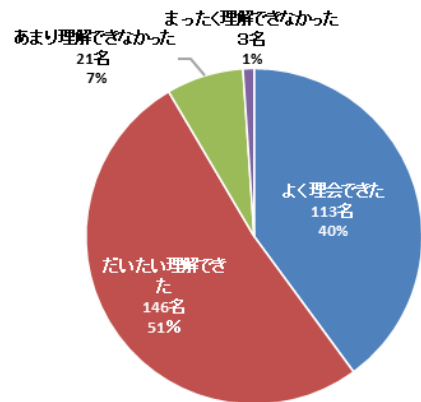
青森大学  
(2023年1月13日)

# (1) 現場公開 ②長泥地区環境再生事業の一般の方向け見学会の実施

- ・ 長泥地区環境再生事業に対する認知度や理解度を高めるため、一般の方向けの現地見学会を2021年7月から開催し、昨年度は135名（2021年7月～2022年3月）、今年度は167名（2022年4月～11月）の方に御参加いただいた。
- ・ 長泥地区環境再生事業の一般の方向け現地見学会において、参加者にアンケートを実施した。その結果については、以下のとおり。

## 長泥地区環境再生事業現地見学会のアンケート結果について

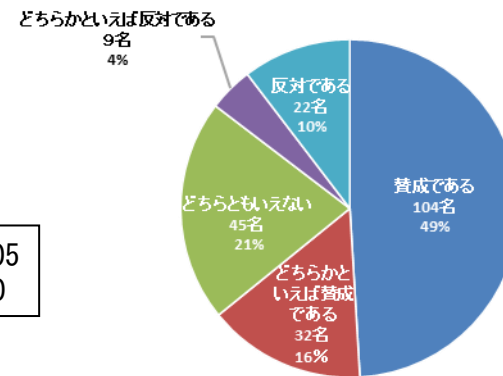
見学会に参加して、長泥再生実証事業に対して、理解されましたか。



n=285のうち県内：205  
県外：80

n=285  
(2021年7月3日～11月20日、2022年3月29日～11月19日  
に行われた計28回の見学会参加者から回答)

県外最終処分に向けて、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか



n=212のうち県内：134  
県外：78

n=212  
(2021年10月5日～11月20日、2022年3月29日～11月19日  
に行われた計20回の見学会参加者から回答)

## 【アンケートでいただいた意見等】

- ・ 放射線だけでなく、利用されるとき用途に合った性状であれば再生利用は問題ないと思う
- ・ 放射線をしっかりと測定し、安全であるとされたものが用いられると思うから、安心していいと考えています
- ・ 福島や飯館の（原発の被災地）ことを少しでも理解していく必要があると思う。
- ・ （気持ち的に）とてもデリケートな問題で、住民間の総意がとれるか難しい
- ・ 安全だと言われても不安は残る
- ・ 全国民が、どのような形で、負担を負うべきだと思う

## (2) 全国的な理解醸成活動 ①「対話フォーラム」の開催

福島県内で発生した除去土壌等の年以内県外最終処分を実現するため、減容・再生利用の必要性及び安全性について全国での理解醸成活動を抜本的に強化。その取組の一環として、2021年度より対話フォーラムを開催している。



2023年1月21日  
対話フォーラム (@新潟)の様子

これまでに合計7回開催。  
対話の様子はオンラインで公開中。

＜これまでの開催実績＞

- ・第1回 2021年05月23日 オンライン配信
- ・第2回 2021年09月11日 オンライン配信
- ・第3回 2021年12月18日 名古屋
- ・第4回 2022年03月19日 福岡
- ・第5回 2022年07月23日 広島
- ・第6回 2022年10月31日 高松

(YouTubeアーカイブ動画等⇒)



### 第7回

■ 日程：2023年1月21日（土） 14:00 ～ 16:00

■ 会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター4F  
国際会議室

■ 登壇者：

西村環境大臣、土居環境再生・資源循環局長  
高村 昇氏（長崎大学教授）、  
佐藤 努氏（北海道大学大学院教授）、  
大場 恭子（長岡技術科学大学工学研究科准教授）、  
なすび（福島環境・未来アンバサダー）、  
吉田 学（一般社団法人 HAMADOORI13 代表理事）

■ 参加者数：

会場参加者：60名 オンライン参加者：170名  
YouTube同時最大視聴者数：151名  
会場・オンライン合わせて、124件の御意見・御質問をいただいた。

■ 備考：次回は3月18日（土）に、仙台で対話フォーラムを開催予定。



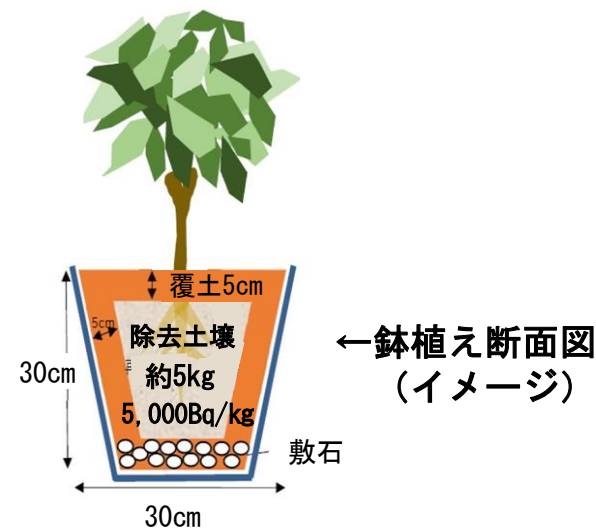


## (2) 全国的な理解醸成活動 ②除去土壌を用いた鉢植え等の設置

除去土壌を用いた鉢植えを、これまで総理大臣官邸、関係省庁、自民党本部、公明党本部、環境省関連施設（新宿御苑、国立環境研究所等）に設置し、17施設22個となっている（2023年2月末現在）。2022年3月には除去土壌を用いたプランターを、環境本省の正面入口前に設置した。



▼2022年3月には、除去土壌を入れたプランターに花を植えて設置。





## (2) 全国的な理解醸成活動 ③大学生や高校生等を対象とした講義等

- ・ 除去土壌の再生利用等の全国的な理解醸成として、全国の大学生や高校生などを対象とした講義を実施。
- ・ 令和3年度は計33校で実施したが、令和4年度はさらに拡充して、集中講義方式やゼミ方式、Web講義などを取り入れ、2023年1月末現在で約45の大学・高校・高専等で講義を実施。約160コマに相当する講義に約2,000名の学生が受講。
- ・ また、福島県内の高校等を対象とした環境再生事業に係る出前授業や長泥地区環境再生事業等に係る現地見学会についても実施しているところ（令和3年度は4件、令和4年度は5件）。

■2022年6月 慶応義塾大学での講義の様子



■2022年9月の福島県立須賀川桐陽高校での講義・現地見学の様子



■2022年8月31日～9月2日  
現地見学ワークショップの様子



飯舘村長泥地区環境再生事業エリア



東京電力廃炉資料館



■2022年12月26日～27日  
現地見学ワークショップの様子



### (3) 環境再生ツーリズムの推進

#### 次世代ツアー

- ・「福島のと未来を伝えよう」と、全国から学生が集まった学生が復興の現状や福島県が抱える課題を見つめ直し、次世代の視点から情報を発信することを目的として、ツアーを開催。
- ・長泥地区環境再生事業エリアを視察。京都大学・東京電機大学・青山学院大学・関東学院大学・滋賀県立大学大学院・明石工業高等専門学校が参加。



長泥地区環境再生事業エリア見学の様子

#### 有識者企画ツアー

- ・除去土壌等の再生利用・福島県外最終処分等に対する理解醸成等を目的として、飯舘村の長泥地区の再生事業に携わっている万福裕造氏を中心に、全国の大学のネットワークを活用して、学生を集めた現地見学・ワークショップを実施。
- ・全国の大学生が長泥地区の環境再生事業エリアを見学した。静岡大学・慶應義塾大学・宮崎大学・九州大学・東京農工大学・大阪大学・神戸大学の学生が参加。



長泥地区環境再生事業エリア見学の様子



# （３）環境再生ツーリズムの推進

## ホープツーリズム等との連携

- ・福島県のホープツーリズムや福島イノベーション・コースト構想事業地等とも連携し、多くの訪問者に福島の今を見ていただくことで、理解醸成・風評払拭・リブランディングを図るツアーへの展開を予定。



# (4) 広報誌等の掲載(環境省広報誌)

- ・ 環境省の広報誌「エコジン」2022年8月号の特集「福島環境再生のいま」で、環境再生事業や飯館村長泥地区での取組について一般の方向けに御紹介。長泥住民の方にもインタビューに御協力いただいた。
- ・ 2022年9月に行われた「第13回飯館村長泥地区環境再生事業運営協議会」の内容をよりわかりやすく知っていただこうと「運営協議会便りVol.4」を発行した。



## 福島環境再生のいま

2022.08.10

復興

### 5. 飯館村長泥地区環境再生事業の今後の進め方について

飯館村では今後の事業の進め方について以下のように取り進められています。

- 4工区は既に、再生事業の進捗の進捗が確認されていることから、今後、地盤の調査や地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。
- 今年度の中間評価の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。
- また、地盤の改良工事の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

### ● 長泥地区運営協議会とは？

この協議会は、正式名称「飯館村長泥地区環境再生事業運営協議会」といいます。

目的：飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

開催：これまで13回の開催が行われており、今後も定期的に開催されていきます。

開催内容：地盤の改良工事の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

開催場所：飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

開催時間：13時から15時まで開催されます。

開催費用：協議会の開催費用は、飯館村が負担します。

開催参加者：協議会の開催には、飯館村の職員、関係機関の職員、住民の代表者が参加します。

開催連絡先：協議会の開催に関するお問い合わせは、飯館村の環境再生課までお願いします。

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

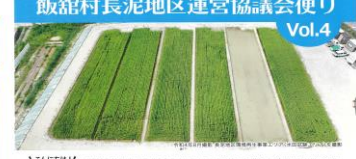
開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

開催問い合わせ先：飯館村 環境再生課 024-682-2111

### 飯館村長泥地区運営協議会便り Vol.4



飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。

飯館村長泥地区環境再生事業の進捗を確認しながら、地盤の改良工事の進捗を確認しながら進められていきます。



## (5) 情報発信 ①福島環境再生等に関する各種媒体の活用

- ・ 福島環境再生や環境先進地域を目指した取組などについて、コンテンツの充実や表彰制度・公告展開等を推進。

### 動画「TO KNOW TO TELL」(2022年4月公開)

- ・ 除去土壌等の福島県外最終処分に向けて、世代を超えて、除去土壌について伝え、知る、そして考えるため、環境再生事業に関する現地でのフィールドワークやワークショップに参加した学生のメッセージ等を紹介する動画。

▶<https://www.youtube.com/watch?v=Ymap8jUdgPw>



### 小島よしおと一緒に福島を学ぼう (2022年8月～)

- ・ 福島第一原子力発電所の事故から11年。復興に向けた福島の大課題の一つである「除去土壌」について、人気お笑い芸人「小島よしお」が「聞く」「見る」「考える」を通して、分かりやすい言葉で伝えていく。

▶<https://kankyosaisei.env.go.jp/next/movie2022/>



▲第1回：環境省本省で環境再生事業について説明を受ける



▲第2回：実際に現場（飯館村長泥地区環境再生事業実証エリアと中間貯蔵施設）を見学



◀第3回：学んだことを自ら大学の講義で発信！



## (5) 情報発信 ①福島環境再生等に関する各種媒体の活用

- ・ 福島環境再生や環境先進地域を目指した取組などについて、コンテンツの充実や表彰制度・公告展開等を推進。

### 動画「福島、その先の環境へ。」(2021年3月公開)

- ・ 東日本大震災・原発事故から10年間、福島県で行われてきた除染、中間貯蔵施設事業や、除去土壌等の今後について紹介。
- ・ 全国各地で開催する対話集会等で活用。

▶ <https://kankyosaisei.env.go.jp/jigyo/news/20210313.html>



### チャレンジ・アワード (2020年度～)

- ・ 福島にゆかりや関心のある若い世代の方々を対象に、福島のこれまでの振り返りと、「福島をこう変えたい」、「福島がこうなってほしい」という復興や未来、希望に関するアイデアや想い、環境に関する取組の提案、すでに取り組んでいる活動の紹介等についてまとめた作品を募集。

▶ <https://kankyosaisei.env.go.jp/next/award/>



### 書籍「福島環境再生100人の記憶」(2021年3月発行)

- ・ 様々な立場で環境再生に関わった方や地域の復興に取り組まれてきた方など、計100人(組)のお話を収録。
- ・ 震災を体験し、復興に向けて奮闘し続ける方々の記憶と、これからの思いを語っていただいた。

▶ [https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/20210219\\_01.html](https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/20210219_01.html)



### FUKUSHIMA NEXT (2021年度～)

- ・ 福島において、環境の視点から地域の強みを創造・再発見する未来志向の取組を実施する方々を県内外の様々なメディアで発信。



FUKUSHIMA NEXT 2021年4月新聞広告



FUKUSHIMA NEXT 2022年3月新聞広告

▶ <https://kankyosaisei.env.go.jp/next/evolution/next/>

## (5) 情報発信 ②各種イベントにおける福島環境再生等の紹介

- ・各地でのイベント等に出展し、福島環境再生の状況や除去土壌等の再生利用・福島県外最終処分に向けた取組、環境先進地域を目指した未来志向の取組等について紹介。

### 福島マルシェふくしま物産展（東京）



### 新宿御苑「福島、その先の環境へ。」展（東京）

パネルや鉢植え等の展示のほか、日本橋ふくしま館と連携し県産品のPR・販売を実施。



### ふくしまフェスティバル（大阪）



### LIVE AZUMA（福島）

福島県内外の音楽ファンが集まるイベントで福島での環境再生の取組等に関する展示を実施。



## (5) 情報発信 ③「福島、その先の環境へ。」シンポジウムの開催

- ・ 令和3年3月13日、東日本大震災・原発事故の発生から10年が経過することを契機とする「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』」シンポジウムを開催。
- ・ 令和4年3月12日にも「福島、その先の環境へ。」シンポジウムを開催し、今年度は令和5年3月12日に開催予定。
- ・ これまでの環境再生事業の10年を振り返るとともに、若者をはじめとする県内外の方々と福島の未来に向けたメッセージを発信。

### 「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』」シンポジウム

(2021年3月)

▼アーカイブ配信URL

[https://youtu.be/mLbC\\_r7XIeY](https://youtu.be/mLbC_r7XIeY)

#### 第1部

#### 環境再生事業への理解醸成

環境再生事業の振り返り



ふくしま未来100人会議  
みんなで考える福島の未来



#### 第2部

#### 福島県産再生可能エネルギー利用促進

##### 基調講演

福島復興と再生可能エネルギーのちから



##### プレゼンテーション& トークセッション

福島復興と再生可能エネルギーの未来

#### 第3部

#### 子供たちへの顕彰と記憶の継承

チャレンジ・アワード表彰式



受賞者とのトークセッション

### 「福島、その先の環境へ。」 シンポジウム2023(予定)

環境再生事業の振り返り



次世代ツアー活動報告



チャレンジアワード受賞者  
によるプレゼンテーション



パネルディスカッション  
福島の環境再生と未来



## (6) 国際的な情報発信

- ・ COP26やCOP27のジャパン・パビリオンにおいて福島復興の取組等に関する情報発信や、海外メディア向けの中間貯蔵施設等の現地視察会の開催などを実施。来年度もCOP28での情報発信や海外メディア向けの現地視察会の開催に加え、G7でのブース展示による情報発信の実施を検討。
- ・ 除去土壌の再生利用・最終処分や理解醸成等に係るIAEA・環境省専門家会合の開催に合意。  
(第1回会合を今年春頃に開催し、その後も含め、計3回程度会合を開催する予定。)

### COP26ジャパンパビリオン（イギリス・グラスゴー）

セミナーとブース展示を実施し、福島では原子力災害からの環境再生や復興が進んでおり、脱炭素化など環境先進地域を目指した取組も進められていることを海外に発信。



▲ 満席のセミナー会場



▲ 満席のため、会場の外で聴講される方々



▲ ブース展示の様子

### COP27ジャパンパビリオン（エジプト・シャルム エル シェイク）

ブース展示を実施し、特定復興再生拠点区域の避難指示が解除された葛尾村、大熊町、双葉町の紹介など、環境再生と復興の取組を海外に発信。



▲ ブース展示の様子



### 海外メディア向け現地視察会

2022年6月に開催した海外メディア向け現地視察会では、フランス、オーストラリア、中国、韓国など、6カ国から7社10名に参加いただき、その後、各国のメディアで発信された。



▲ 中間貯蔵施設での説明と取材の様子



▲ 長泥地区の実証施設内での説明と取材の様子

## 2. WEBアンケート結果について

# WEBアンケート結果

## 1. 回答者について

- ・ 令和4年度新規回答者：1,680名（福島県以外：1,426名、福島県：254名）  
北海道：177名、東北（福島除く）：182名、関東：181名、中部：179名、  
近畿：177名、中国：173名、四国：179名、九州・沖縄：178名  
福島（浜通り）：75名、福島（中通り/会津）：179名
- ・ 令和3年度新規回答者：1,659名（福島県以外：1,403名、福島県：256名）  
北海道：172名、東北（福島除く）：173名、関東：172名、中部：178名、  
近畿：178名、中国：176名、四国：178名、九州・沖縄：176名  
福島（浜通り）：80名、福島（中通り/会津）：176名

## 2. 質問事項について

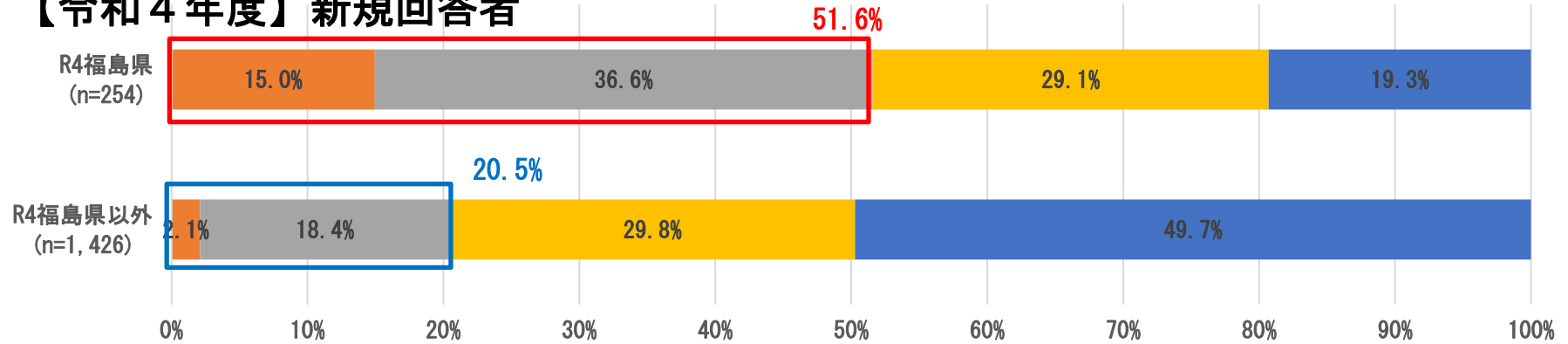
| 質問番号 | 質問事項                                                                                                               |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Q 1  | あなたは、福島第一原子力発電所事故後の除染作業によって生じた土壌（以下、「除去土壌」という）等が中間貯蔵開始後30年以内（2045年の3月まで）に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。 |
| Q 2  | あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、何で情報を得ましたか。（複数回答）。                                                                    |
| Q 4  | 環境省では、福島県飯舘村長泥地区等において再生利用の実証事業を行っております。あなたは、除去土壌の再生利用について、その内容をどの程度ご存知でしたか。                                        |
| Q 5  | あなたは、除去土壌の再生利用について、何で情報を得ましたか（複数回答）。                                                                               |
| Q 7  | あなたは、除去土壌を再生利用する必要があると思いますか。                                                                                       |
| Q 8  | あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。                                                                                          |



Q1：あなたは、福島第一原子力発電所事故後の除染作業によって生じた土壌（以下、「除去土壌」という）等が中間貯蔵開始後30年以内（2045年の3月まで）に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。

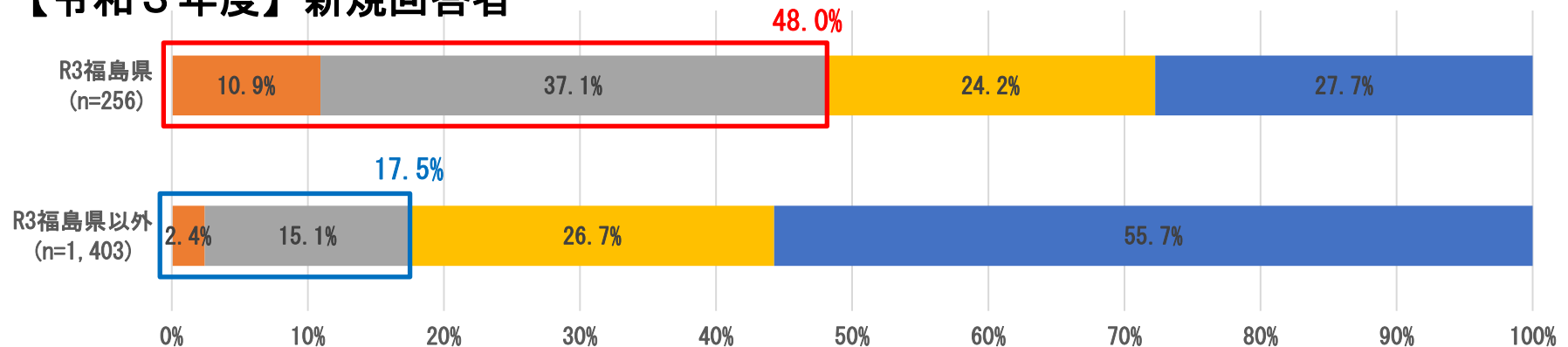
- 「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」を合わせた回答は、福島県では約50%、福島県以外でも約20%となっており変化は見られない。

### 【令和4年度】新規回答者



■ 内容をよく知っていた ■ 聞いたことがあり、内容も少し知っていた ■ 聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった ■ 聞いたことがなかった

### 【令和3年度】新規回答者

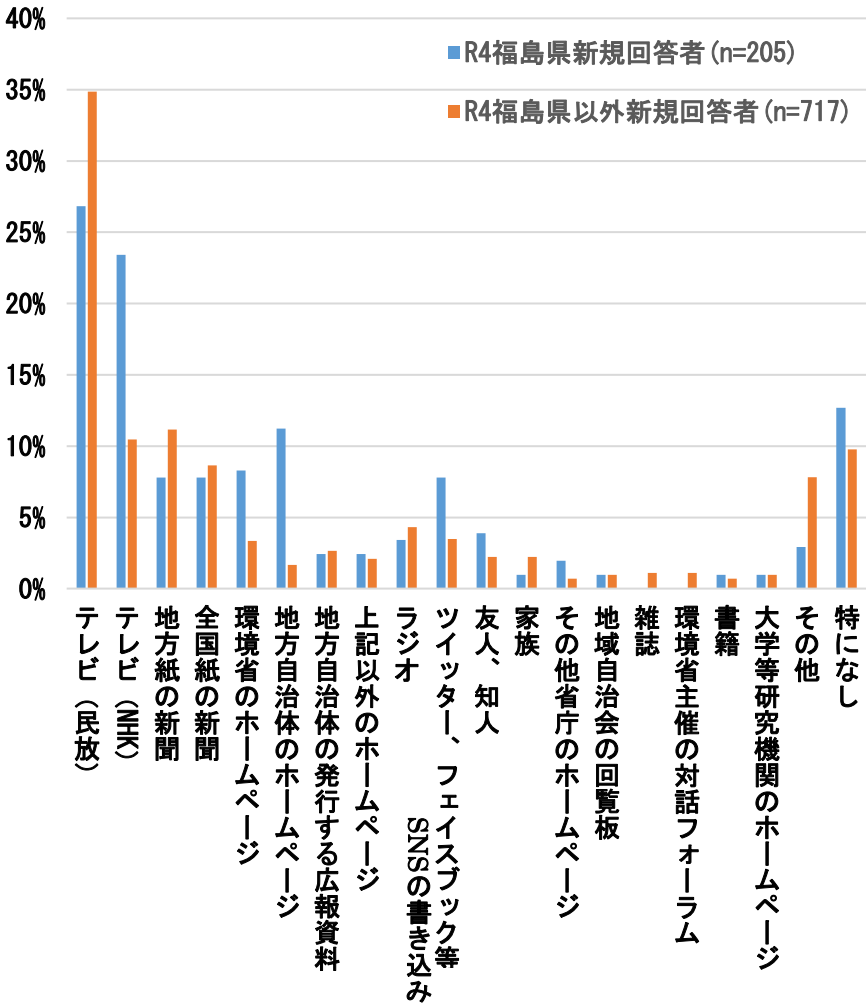


■ 内容をよく知っていた ■ 聞いたことがあり、内容も少し知っていた ■ 聞いたことはあるが、内容は全く知らなかった ■ 聞いたことがなかった

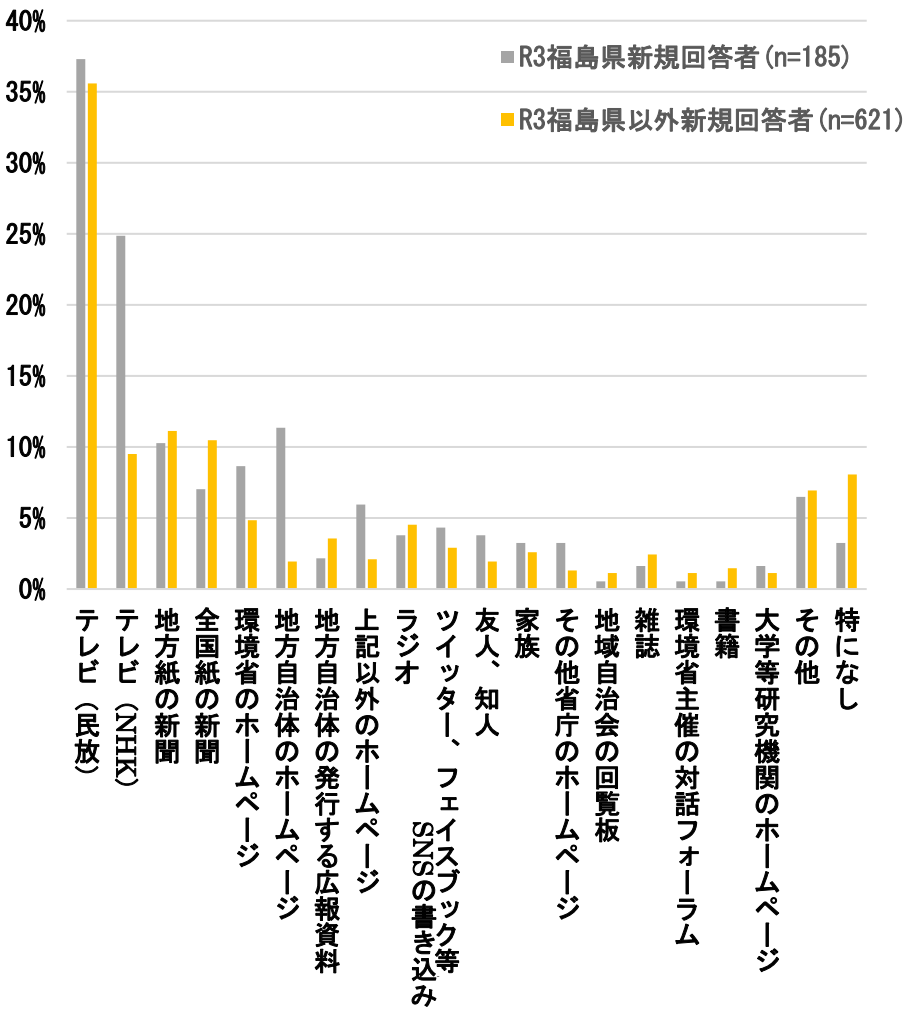
Q2：あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、  
何で情報を得ましたか。（複数回答）

- ・ どちらの年度もテレビ（民放、NHK）が多い。
- ・ 令和4年度では福島県の回答者はテレビ（民放）が減少し、SNSからの情報入手が増加している。

【令和4年度】新規回答者



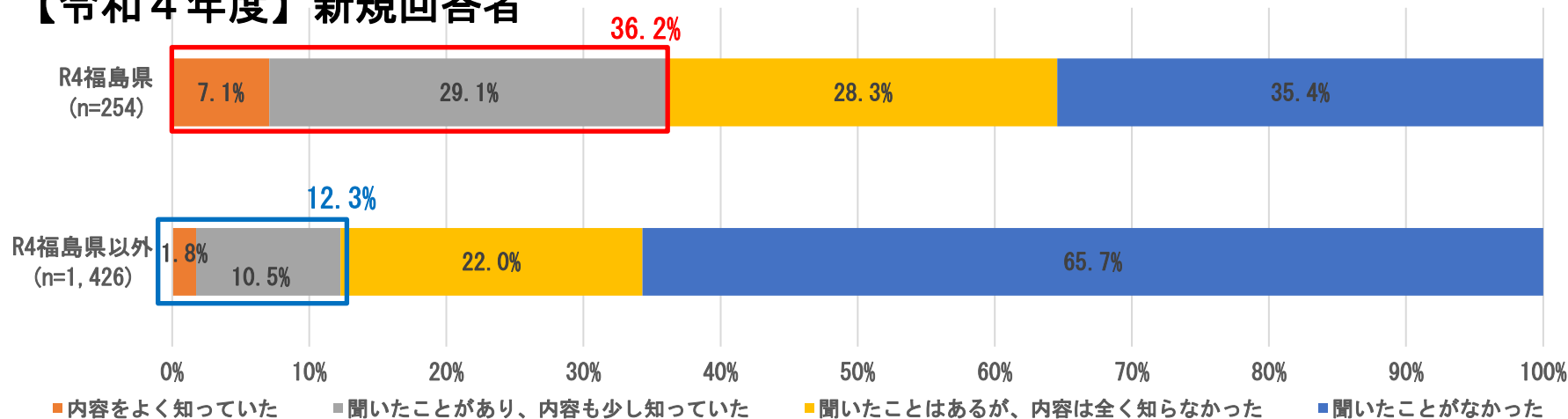
【令和3年度】新規回答者



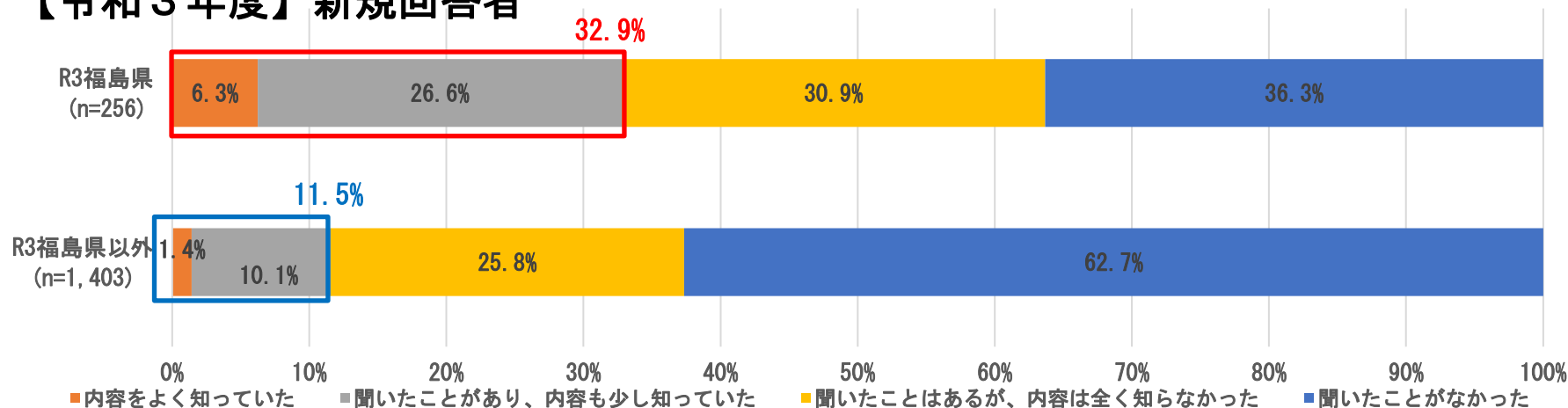
Q4：環境省では、福島県飯舘村長泥地区等において再生利用の実証事業を行っております。  
あなたは、除去土壌の再生利用について、その内容をどの程度ご存知でしたか。

- 「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」を合わせた回答は、福島県約35%、福島県以外約12%となっており変化は見られない。

### 【令和4年度】新規回答者



### 【令和3年度】新規回答者

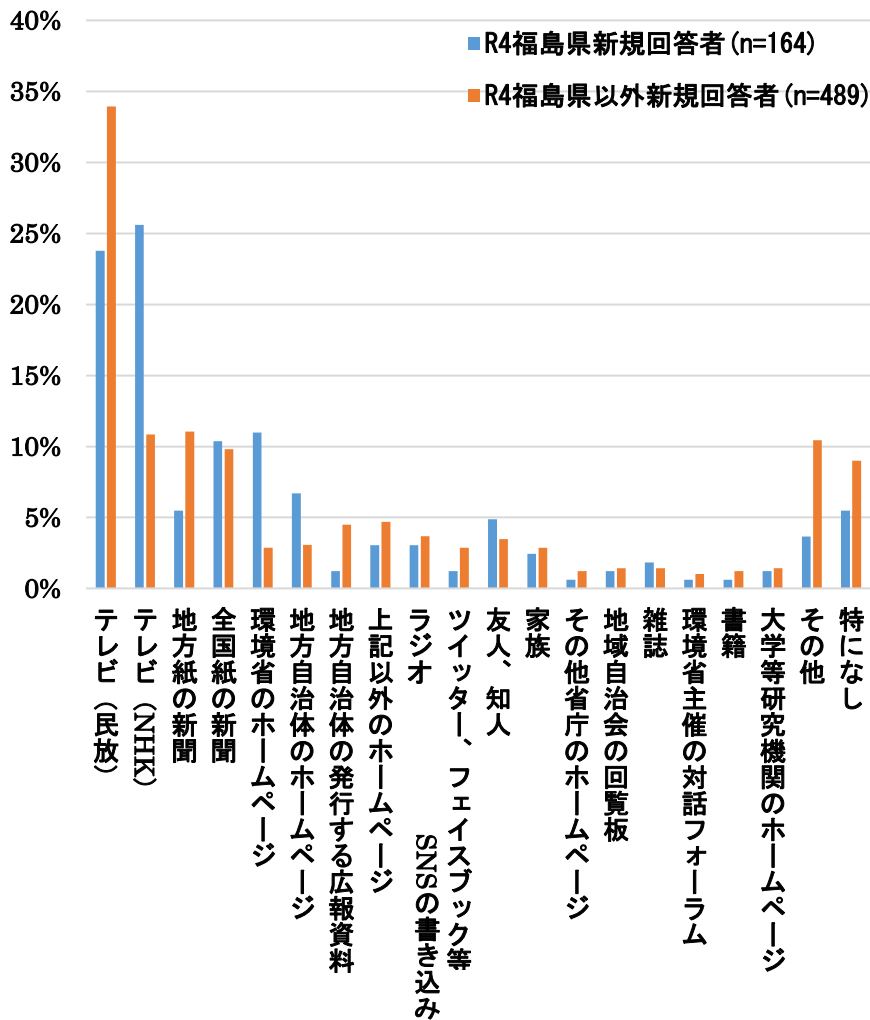




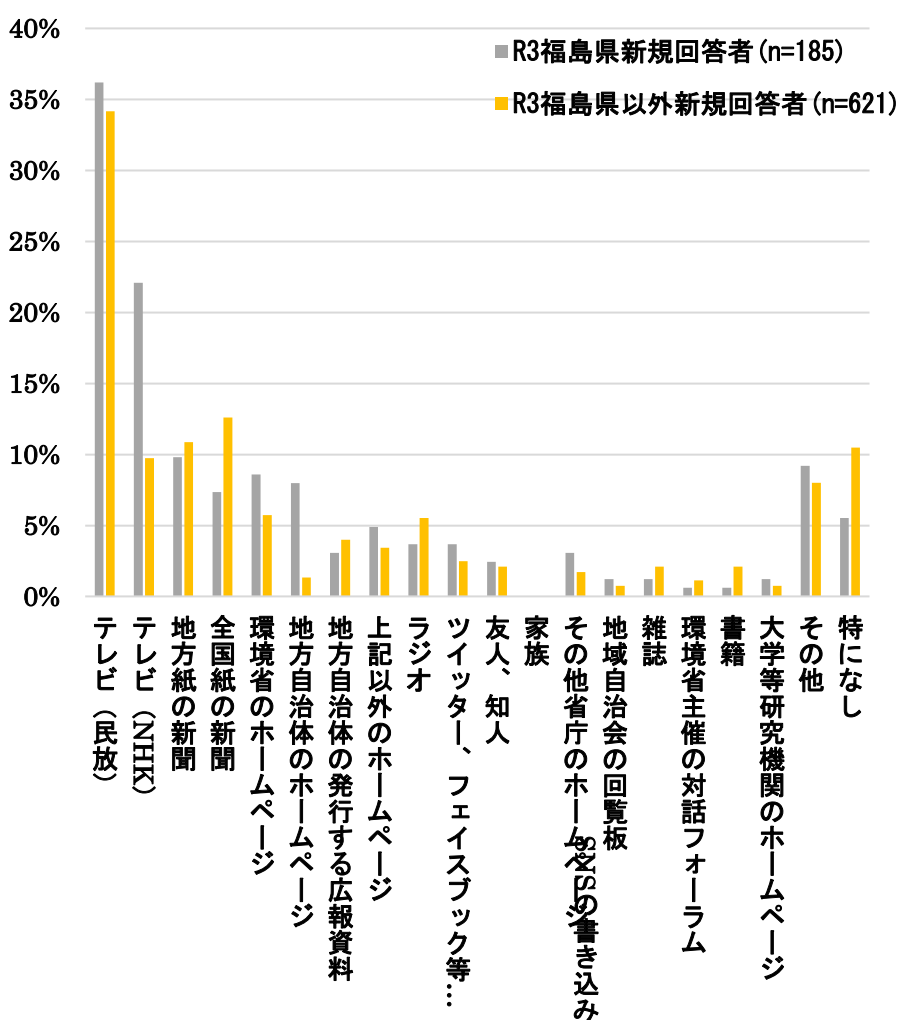
Q5：あなたは、除去土壌の再生利用について、何で情報を得ましたか。  
(複数回答)

- ・ どちらの年度もテレビ（民放、NHK）が多い。
- ・ 令和4年度福島県回答者はテレビ（民放）が減少し、環境省のホームページが増加している。

【令和4年度】新規回答者



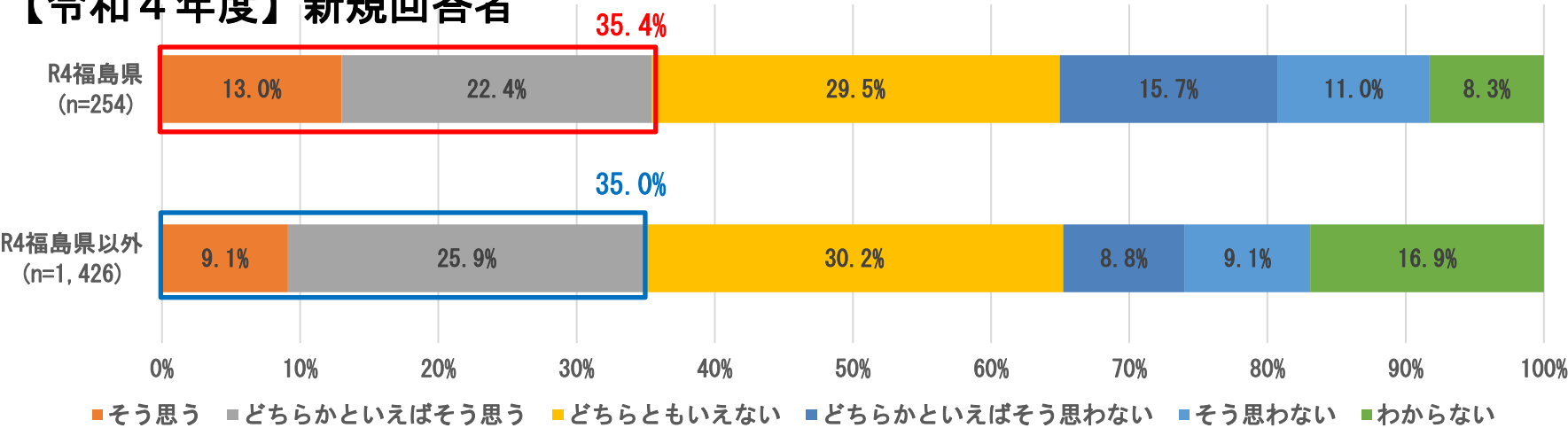
【令和3年度】新規回答者



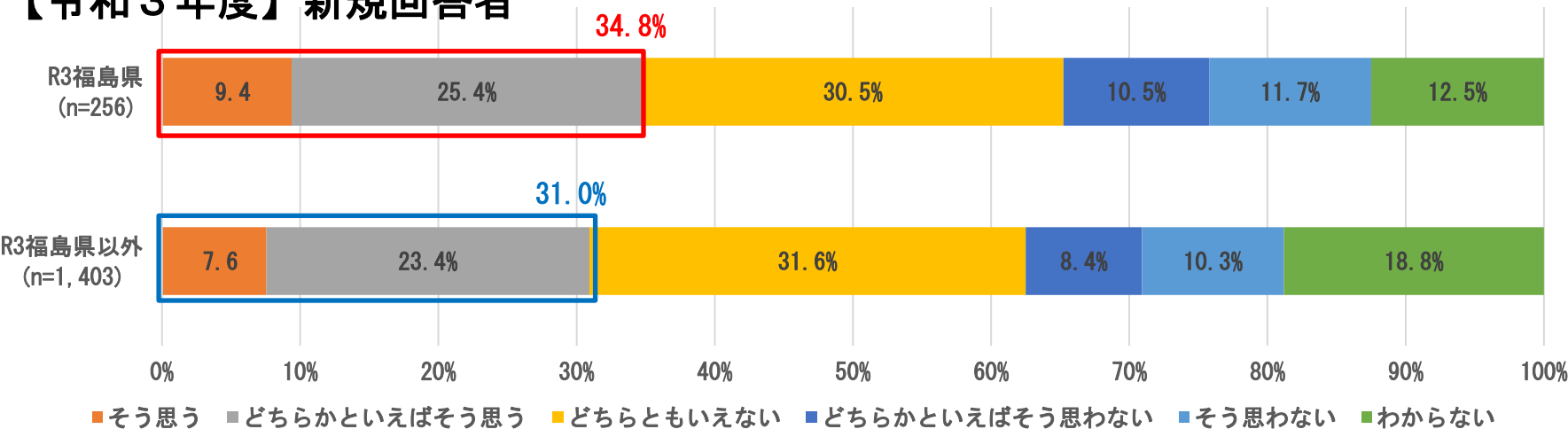
Q7：あなたは、除去土壌を再生利用する必要があると思いますか。

- 「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は同等であり、ほかの回答も含めて変化は見られない。

【令和4年度】新規回答者



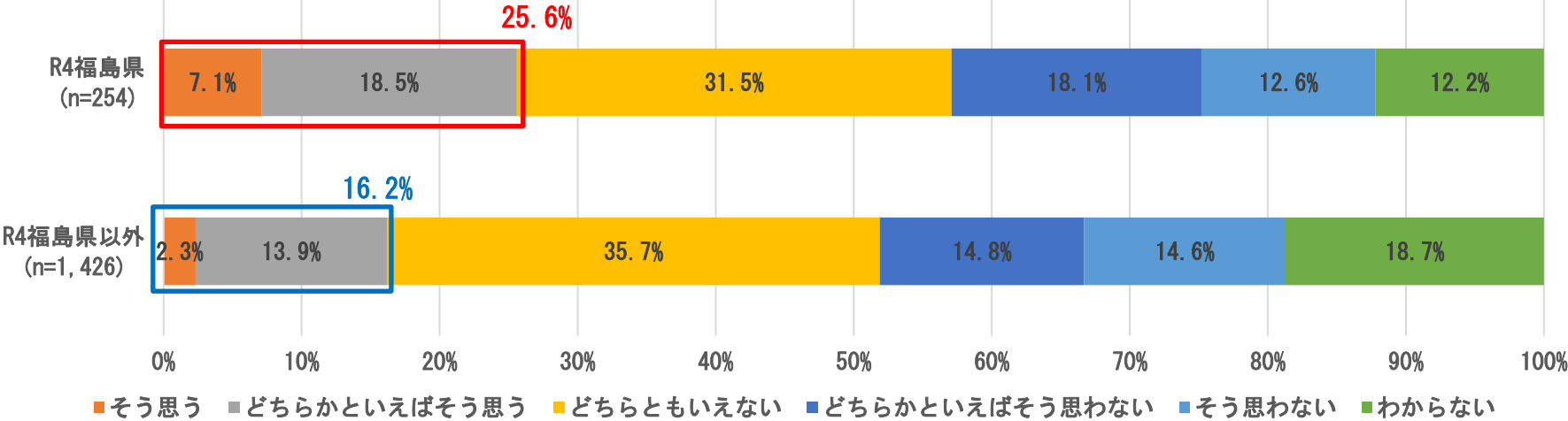
【令和3年度】新規回答者



Q8：あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせたものは福島県では増加傾向にあるが、福島県以外では同程度である。

【令和4年度】新規回答者



【令和3年度】新規回答者

